第二ラウンド開始　　S子

「残念ながら転移です。」 主治医の言葉に、半分はまさか、と思い、でも後の半分はやっぱり・・・と思った。二度目の告知も容赦はなかった。5年前、ステージⅡa の乳癌による左乳房切除。鎖骨リンパ節への転移も認められ、手術後は抗癌剤治療と、定期検査をまじめに受け続けていたのに。なんと神様はいじわるなんだろう。

左足つけ根外側にぷくんと膨らみを感じたのは、ちょうど2年前の夏のこと。定期検診の際に主治医に診てもらったが、「おできの様なもので、今の病気とは関係ないでしょう。」ということだった。それを信じていたが、少しずつ大きくなり、今年はどうしても見過ごせなかった。精密検査の結果は転移だった。血流にのって癌細胞が皮膚の下へ遠隔転移という稀なケースの様だ。治療方針の決まる翌週までは、不安が募り、食欲もなくなり、夜も眠れなくなったが、私の病気回復を願ってくれる多くの人達の励ましもあり、暗い穴から這い出す様に気力を取り戻した。

ところで、私の父方の祖母は40代で子宮癌を患い、その後皮膚癌、胃癌も経験しながら92才で老衰で亡くなるまで、元気に生きた明治生まれのつわものである。子宮癌の手術の後遺症でずっとおむつをあてていたが、一緒に暮らしていた私は、祖母が病気の事を愚痴ったり嘆いたりするのを聞いた覚えがない。その血を受け継いだ私も、もっと長生きできるはず。人間誰しもいつかは死を受け入れなくてはいけない。それまではとことん生きるしかない。そう思った私は、仕事はもちろん、展覧会、講演会、読書、音楽そして趣味の手作り等々と検査の合間は忙しく過している。興味のある事や場所にはどこへでも出かけていく。それらは、まちがいなく私に元気や勇気を与えてくれるからだ。万が一心が沈んだ時には、医師に処方してもらった安定剤もある。

そして5年前にもまして私には沢山の応援団がついている。「あまり先の事ばかり考えないこと」「今はしっかり食べて手術をのりきる体力をつけること」当り前のことでも、暗闇の中では一条の光の様な言葉を、みんな届けてくださる。また、同じ癌を体験した人たちと知り合えた事も、今回大きな収穫だった。皆部位は違えど、しっかりと生き抜きしかもユーモアも忘れない仲間たちの声援は、大きな力で私を支えている。第2ラウンドのゴングは鳴ったばかりである。どんな戦いになるのか、ギブアップはしない。